



《会計・税務の知識》

ベンチャー企業経営の基本
～資金繰りをよくするには～

売上は上がっているが手許の資金が心もとない、投資をしたくともどれくらい資金を使ってよいかわからない、会社にいくらお金が残っているのかわからないなど、ベンチャー企業経営で資金繰りに関する悩みは尽きないものです。そこで今回は、資金繰りを改善するヒントをご紹介します。

1. 資金繰りの把握

まずは、自社の資金繰りを把握しなければなりません。資金の入りと出を、要因別に集計したのが資金繰り表です。これを基に資金繰りを把握・分析することになります。資金繰り表については、以前2010.7.5号の《会計税務の知識》でも書きましたので、そちらを参照頂ければと思います。

(<http://img01.ecgo.jp/usr/koyano/img/100715173744.pdf>)

2. 資金繰り改善のポイント

資金繰りの改善を考える際に着目するポイントを、以下のようにまとめてみました。

区分	項目
資産	売掛金・受取手形・在庫
	設備投資
	立替や貸付などその他資産
負債	買掛金・支払手形
	借入金
	その他負債
利益	収益
	費用

では、区分ごとに資金繰り改善のヒントを簡単にご説明します。

3. 資産

資産関係は増やせば良いというものではありません。**売掛金**の回収期間は早めること。回収の遅れは資金繰りを急激に悪化させます。貸し倒れはもつてのほかです。**受取手形**はなるべく持たないようにします。**在庫**は借金と思えと言われるとおりです。極力減らすべきと言えます。適正な在庫量であることはもちろんのこと、在庫があるだけでも倉庫代等の経費がかかることに留意する必要があります。**設備投資**は在庫同様に無駄な投資をしないよう、投資計画を立ててみてはいかがでしょうか。**立替金**や**貸付金**なども可能な限り減らすべきです。

4. 負債

負債関係も減らすことは大切ですが、払いつづりがよくても資金繰りは良くなりません。**買掛金**などの支払はなるべくあとに、売掛金回収より遅らせられれば、なお良しです。仕入債務が増えれば、正常な営業状態であれば、資金繰りはプラスに働きます。**借入金**については、短期借入からなるべく長期借入に変更することが資金繰りにはプラスに影響します。

5. 利益

利益が増えれば、それだけ資金が入ってくることはなりません。**利益**は「売上-費用」ですので、売上を上げるか費用を下げれば、利益は増大することになります。費用削減は、だれが・いつ・どのように取り組むかを明確にして、進めていく必要があります。また、社内で行っていた業務を外注することによって、**固定費を変動費化**することも一考です。

6. 万が一のための備え

最後に、万が一の時の備えとして考えられる手法を紹介します。**生命保険**は、養老保険等の貯蓄性の高い保険に加入することにより、必要な時に解約して解約返戻金を受け取ることもできますし、解約せずに契約者貸付金によって一時の資金繰りをしのぐこともできます。**小規模企業共済**も、生命保険と同様に、いざという時に貸付を受けられる制度ですが、掛金の全額が加入者の所得控除とすることができることが特長です。**経営セーフティ共済**は、取引先が倒産して売掛金が回収不能となった場合に、融資を受けることができる制度です。倒産の事態が発生していなくても、事業資金の貸付を受けることができます。掛金は全額費用とすることができますし、一定の加入期間があれば、解約した際に掛金全額が返金されます。

資金繰り改善のためのヒントをまとめてみました。思い当たる点があるようでしたら、早速行動に移してみてもいかがでしょうか。

次回もベンチャー企業経営に欠かせない、会計・税務に関するトピックをわかりやすくご説明したいと思いますので、よろしく願います。

(担当：豊山 忠明)